

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500038		
法人名	有限会社ナチュラル・ライフ		
事業所名	グループホーム恵寿		
所在地	岐阜県中津川市中津川字子野950-25		
自己評価作成日	平成27年8月1日	評価結果市町村受理日	平成27年10月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2191500038-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成27年9月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開業7年目になりました。建物や庭は入居者が安心して生活して頂けるように、認知症ケアのノウハウを活かし、症状が緩和できるように工夫をしています。またスタッフには法人独自の研修を行ない「尊厳のある その人らしい 穏やかな生活」を目標に、入居者様、ご家族様に満足して頂けるような 良いケアを目指し取り組んでいます。そして地域の一員として交流の場を設けたり、地域の方々に認知症という病気を理解していただけるように日々努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、豊かな自然に恵まれ、静かな環境の中にある。窓からは、地元の風景が一望でき、四季を身近に感じることができる。庭の一角に東屋が有り、その横には、地蔵様が建立してある。利用者が日々集い、心を癒し、支える場ともなっている。法人は、先駆的な認知症ケアや、独自の職員教育を取り入れ、資格取得や専門性の高い人材育成に力を入れている。利用者が地域の一員として、心豊かに、穏やかな日常生活が送れるように、職員一丸となってより良いケアを目指し、支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念として「尊厳のあるその人らしい穏やかな生活」を入居者様が送れるように全スタッフが理念を共有している。理念を正しく認識できるように事務所に掲示や研修時に指導をしている。	理念は「尊厳のあるその人らしい穏やかな生活」を掲げ、その意義を、ミーティングや日々の暮らしの中で再確認し、全員で共有している。利用者が、地域の中で、その人らしい穏やかな暮らしができるように、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として防災訓練や夏祭りなどの行事と一緒に参加するなど日常的に交流をしている。散歩時には地域の方に挨拶をしたり、農家の方からは野菜を頂いている。	自治会員として、地域行事(流しそうめん、左義長)や防災訓練に参加をしている。地域の夏祭りでは、応分の役割を担って参加している。高校生の介護実習を受け入れ、近所とのつきあいも親密である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年1回夏祭りを地域の方と協力して実施している。準備は推進会議や地域の寄り合いで話し合い、夏祭りの盆踊りをスタッフが教えてもらっている。夏祭りの内容も認知症の方でも楽しめるように高齢者の年代に合わせた歌等をお願いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、ご家族様代表、区長、民生委員、福祉推進委員、行政等から出席を得ている。会議の中で入居者様の生活、状況、行事、防災訓練、地域行事を話し合い、それらの意見をサービス向上に活かしている。	会議は、定期に開催し、利用者の生活状況や行事の様子を写真で紹介し、意見を交換している。また、会議の年間予定を地域に伝え、防災訓練や夏祭り、その他の行事などについても話し合い、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市主催の研修会、グループホーム部会、ケアマネ部会等に参加し、市の担当者とも連携が取れている。「子供110当番の家」の取り組みや2ヶ月に1回の介護相談員も受け入れている。	市主催の研修会や各部会に積極的に参加し、情報を交換している。担当者とは、常に連絡を取り合い、協力体制と連携ができています。また、市の介護相談員や「子ども110番の家」を受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠をはじめ、身体拘束はしていない。「禁止の対象となる具体的な行為」を全スタッフが理解しながらケアに努めている。	身体拘束をしないケアについて、マニュアルを基に、拘束の弊害を認識し、拘束ゼロのケアに努めている。スピーチロック、ドラッグロックについても、正しい知識を学び、職員間で、周知・徹底している。外へ出ようとする人は、さりげなく寄り添い、見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時に虐待防止に関する研修を実施しているが、入社後も継続的な虐待防止への意識を促している。		

岐阜県 グループホーム 恵寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	入居者様に後見制度を利用の方が見える。ケアマネ部会等で研修する機会があったので、制度についてスタッフに伝えケアに活かしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分時間をとり、契約内容や制度等の説明を行い、理解、納得して頂けるように働きかけている。また契約後も定期的に連絡をとっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関して入居者様、ご家族から面会時、電話連絡等で伺った意見、要望や運営推進会議などの意見を運営に反映させている。	運営推進会議や家族の面会時、また、電話報告の際に、意見や要望を聞いている。担当職員が、生活の様子や身体状況を「便り」で伝えている。リビングでの過ごし方や筋力低下予防についての意見があり、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は月1回のミーティングや面談、その他の機会などに把握し運営に反映をさせている。	管理者は、資格取得の支援のために、定期的に学習会を行ない、個人面談の機会も設け、努力目標の設定や安心して働きがいのある職場環境づくりに努めている。ミーティングで、職員の意見や提案を確認し、それらを運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力、適正等を把握し業務を任せている。個々の努力や勤労性を認め、それに見合った地位や業務を依頼している。各スタッフに目標を設定しやりがいのある仕事ができるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人スタッフには1ヶ月から2ヶ月間担当者をつけて業務や介護技術はチェックシートを使用しながら研修を行っている。スタッフのキャリアに応じて実践者研修や市等の研修にも参加をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会、ケアマネ部会、中津川市の勉強会等でスタッフが学習、交流の機会を作り質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の見学や自宅訪問時等に、ご本人様が話しやすい雰囲気作りをしながら話に耳を傾けるようにしている。又ご家族様からも情報を頂きながら関係性作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学時に居室やリビング等を見ていただきながらご家族様の声を聞き、サービスの説明をしている。又入居相談表を使いご家族様からの話を聞き関係性作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時にはその方の困っている事の優先順位を考えながらケアプランを作成している。必要に応じて病院受診、歯科受診等のサービスも使用し困っている事を解決できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が今までの生活で培ってきた技術や知識をスタッフが教えてもらっている。調理では入居者様に味付けをみてもらったり、調味料の相談をしたりし入居者様とスタッフが信頼関係をつくれる様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居初期以外にご家族様には自由に面会に来ていただいている。ご家族様にはスタッフと共に入居者様を支えていく関係性を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親戚の方などの関係が途切れないように支援をしている。事業所に美容師に来てもらっているが希望があれば今まで通っていた美容院等にも行ってもらっている。	職員とドライブを兼ねて出かけ、見慣れた風景に触れたり、馴染みの商店で買い物をしている。隣接のディサービスでは、知人・友人に出会い、友人への手紙や電話を取りつぐなど、関係の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居心地良く生活が出来る様に座席の配置に気を配っている。元気な入居者様が歩けない方の食器を片付けたり入居者様同士が支え合う関係ができるように支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後については、入居者様の状況に合わせてご家族様と連絡をとるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に自宅訪問をし、生活歴の確認やご本人様、家族の生活の意向を聞き取ってケアプランに活かしている。入居後もご本人様、ご家族様の声を聞き取り、サービスの提供に活かしている。	日々の暮らしの中で、何気ない動作や表情からも思いや意向を把握している。生活歴からも、その人らしい生き方を、アセスメントシートにまとめ、本人の希望や思いが叶うような暮らし方に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様、ご家族様から入居前に生活歴、身体情報、病歴、サービス利用の経過を聞き取りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の変化に対して連絡ノート、引き継ぎノート、病院受診ノートを使用して毎日の勤務者間で状況の把握に努め支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の表情や発言を見ながらスタッフとケアマネージャーがケアプランを通して意見を出し合っている。又家族からの意向の聞き取りも行っている。入居者様によっては主治医や看護師とも連携を取り入居者様がより良く暮らす為のケアプラン作成に努めている。	本人や家族の意向を、日頃のケアの中で確認をし、把握をしている。介護記録を基に、職員間で検証し、医師や看護師からの情報も踏まえて、利用者が自分らしく、より良い暮らしができるように計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の日々の様子やケアの実践記録をもとにケアプランの評価をしている。ケアマネージャーの視点だけではなく、スタッフの意見も反映してケアプランの実践、見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様、ご家族様のニーズに対応できるように努めている。喫煙や飲酒、携帯電話等入居者様が困らないようにルールを決めて支援をしている。		

岐阜県 グループホーム 恵寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや地域行事(流しそうめん、どんど焼き)の導入や参加をしている。行事などを通して入居者様、スタッフが地域の方々との交流をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にご家族様と相談をし希望する場合は事業所のかかりつけ医に変更をしている。	本人・家族の希望するかかりつけ医を選択している。協力医の内科・歯科医院の通院介助は職員が行うが、それ以外は、家族が対応をしている。緊急時や、家族の都合が悪い場合は、適切に対応できる体制ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診のある日は入居者様の身体、精神状態をまとめて記録をしておき、医師に相談できるようにしている。又事業所看護師にはその都度入居者様の状態の変化を報告、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は介護サマリーを作成し、病院でも事業所の介護の状況が分かるようにしている。退院時には入居者様の状態確認に、病院に行き担当者からの情報の聞き取りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期になった場合は主治医の意見を書面にまとめてグループホームで出来る事をご家族様に理解してもらい対応をしている。又重度化や終末期の内容のケアプランの作成をしている。	終末期や重度化の指針は、契約時に、本人と家族に説明をしている。重度化した段階で、家族と職員を交えて話し合いを重ね、医師の助言を得て、安心して納得した終末期を支えられるよう取り組んでいる。今年度は、1名の看取りを行なった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変時の対応や事故の対応、連絡について指導をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議の中で地域の協力が得られるようにしている。停電時等も明かりの確保ができるように発電の設置やレトルトの食料を設置している。	消防署の指導の下、初期消火や避難誘導訓練を実施している。非常階段、滑り台を設置し、停電に備えて、自家発電装置の使い方の指導を受けた。地域との協力体制は、運営推進会議の議題に取り上げている。食料品を備蓄している。	昨年に引き続き、地域との協力体制づくりや防災管理規定の見直しに期待をしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の尊厳やプライバシーを配慮し声かけを行っている。個人情報の扱い方については全スタッフに周知してもらうように入社時に説明をしている。	人生の先輩として、尊敬の心を持ち、誇りを傷つけない言葉かけや対応をしている。特に、排泄時の声かけや入浴介助の際には、羞恥心に配慮をしている。個人情報についても、全職員に取り扱い方を十分注意するよう周知徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の希望に合わせて外出支援を行っている。入居者様が必要な物(文房具、衣類、お菓子)をお店で選んでもらえるように支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフの業務スケジュール以外は作成をせずに入居者様の状態に合わせて家事や散歩、入浴を支援するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2~3ヶ月に1回美容師が来て散髪をしている。散髪の際には入居者様の好みや希望等を反映した髪型にしている。入居者様の希望で外の美容院にご家族の支援で行かれる場合もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を食べてもらうだけでは無く、食事作り、盛り付けや、配膳、食器洗いを入居者様の状態に合わせてスタッフが一緒に行っている。食事量の低下がある際は医師や看護師と相談をしゼリー飲料やエンシュア等を使用している。	栄養士・調理師免許を持った職員が献立を作成し、調理専門員や職員が、季節感のある食材で、利用者の好みを取り入れながら、馴染んだ味付けで、利用者と一緒に調理している。利用者は、食事の準備や片付けも手伝い、職員は、利用者と一緒に同じテーブルで、会話をしながら食事をする事で、利用者の楽しみと満足につなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を朝、昼、夕とチェックを行っている。水分量の摂取がすくない入居者様は記録に水分量の記入をしトータル摂取量を把握するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昼、夕食後に口腔ケアを行い記録に残している。就寝前に義歯を預かり、洗浄をしている。声掛けにて出来る方は声を掛け、介助が必要な方には口腔ケア介助をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の排泄パターンや生活習慣を活かして支援を行っている。排泄介助の一覧表を活用し、トイレへの誘導やパット交換等入居者様に合わせた介助を行っている。	利用者の排泄パターンを把握し、それに合わせて、トイレへ促している。歩行を支え、適切な誘導で、布下着とパッドに改善した事例がある。夜間は、ポータブルトイレを使用していた人も、こまめな誘導で、トイレでの排泄に変わった人もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の入居者様には排泄状況を記録し情報を共有している。水分の摂取、食事の工夫を行っている。又主治医と相談をし薬の処方をしてもらう場合もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様ごとに入浴日や時間を定めていない。入浴は1人1人の希望に合わせている。入浴の拒否がある場合はタイミングをずらしたり、声かけを工夫をしている。	希望者には、毎日でも入れる体制である。入浴日の時間帯や順番は、本人の希望に応じ、拒否の人は、時間をずらしたり、介助者を替えている。好みのタオル、シャンプーを使用し、楽しい入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼と夜の睡眠のリズムがうまくとれない入居者様には昼間は家事や散歩等を行っている。日中ベッドで横になる入居者様には1日寝ている事が無いように時間を見ながら声を掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフが服薬内容を理解できる様に薬の情報を個別でファイリングしている。服薬介助も入居者様によって口に入れる場合や手渡しをしたりと状態に合わせた介助をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯、調理等、入居者様の出来ることを支援している。室内だけではなく、畑に野菜を植えたり収穫の喜びを感じれる支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日や希望があった際には外へ散歩へ行くようにしている。又長距離歩けない方には畑の水やりやゴミ捨て等敷地内での支援もしている。又地域行事等にも入居者様が参加をしている。	毎日のごみ捨てや野菜畑の水やりなど、周辺の散歩は日常である。また、野菜直売所にも出かけている。事業所の庭にある東屋で、茶や会話を楽しんだり、すぐ隣の地藏様を参拝するなどして、外気に触れている。	利用者・家族の希望に応じて、外出機会を増やし、地域との関わりが更に増えることで、利用者の日常生活の充実につながるよう期待をしたい。

岐阜県 グループホーム 恵寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様と一緒にいった際は支払いができる入居者様には支払いを行ってもらおうようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がかかってきた時の支援や手紙のやり取りを支援している。入居者様がハガキを出せるように切手貼りや郵便局への外出支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に添った行事や草花をテーブルに置いたりしている。昼食前の嚙下運動の歌も季節に合わせて選曲している。	天井が高く、自然の採光が注ぎ、空調を完備した快適な空間である。窓越しに雄大な景色が見えている。対面式の台所や、畳コーナーがある。季節の花を一輪挿しに活けて随所に飾り、玄関や居間には、利用者同士が語り合う椅子を配置し、居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士が話ができ安心して過ごせるように座席に配慮をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には家族と相談をしながら入居者様の使い慣れた食器や家具を持ち込んで頂いている。居室には名前が分かるように表札を掛け、入居者様が自分の部屋と認識しやすい工夫をしている。	居室には、広いクローゼットを備えており、テレビや馴染みの家具などを使いやすく配置している。表札は、利用者が認識しやすいよう工夫をし、花や家族の写真を飾って、居心地よい部屋づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の状態に合わせてセンサー、車椅子、ポータブルトイレ、歩行器等を使用している。自立を促す為に福祉業者と入居者様にあつた用具の導入をしている。		